

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 25 年度

事業所番号	2770801633		
法人名	社会福祉法人 隆生福祉会		
事業所名	グループホームゆめ長居公園		
所在地	大阪市東住吉区鷹合3-1-33		
自己評価作成日	平成 25年 9月 5日	評価結果市町村受理日	平成 25年 10月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・外出の機会を増やし、閉じこもらないよう、社会との関係が切れないように支援している。集団での外出が苦手な方でも個別外出をし、外出先も本人や家族などに本人の行きたい場所や好きな場所を聞き取りし、外出するようにしている。</li> <li>・起床時間(起きたい時間に起きる)や入浴時間(夜の入浴)なども個々のご希望に応じ対応している。</li> <li>・ボランティアなどに協力を求め、いろいろなレクリエーションや外出支援を手伝ってもらっている。ホームに来られる人が増えるということは、なじみの関係が増えるということで定期継続してもらえるようにしてもらっている。</li> <li>・自施設だけでなく、他施設の見学を積極的に行い、良い点を見習い、取り入れるようにしている。</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2770801633-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2770801633-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>多目的設備が整い、管理の行き届いた広い公園東側に立地する、建物の2階・3階にホームがあり、広く明るい居間の窓からは、公園の緑や風景が見渡せます。法人理事長の家族介護への思いから平成17年に開設し、8年目を迎えます。職員は、法人の理念「5つの笑顔」とフロアごとの毎月の目標をケアの中で実践し、家族の安心と利用者の心地よい暮らしを支えています。地域・ボランティア・保育園児・交換留学生など、多種多様な交流の機会と行事により、生活を楽しめる工夫が図られています。職員の提案シートの活用・研修の参加・交換留学など、理事長と管理者は働きやすさと知識・技術・質の向上のための取り組みに力を入れています。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 25年 9月 20日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>理念として、ご利用者様・ご家族様・地域社会・職員・法人の5つの笑顔を実現することを掲げています。地域密着型サービスとして地域との交流を積極的に図り、地域の憩いの場となるよう連携を行なっています。</p> <p>ホーム独自の方針も事業計画時に作成し、「笑顔と元気な挨拶で明るい施設作り」「自立支援」「ご利用者様・ご家族様・地域の信頼を得る」を運営方針に掲げています。また、毎月フロアごとに法人理念を基にフロア目標を掲げ、実践しています。また、フロア会議で目標が達成できているかを検証し、達成できていない場合は、何が原因なのか追究し、目標達成に向けてつなげています。</p>	<p>法人理念の「ご利用者様・ご家族・地域・職員・法人の『5つの笑顔』」は職員をはじめ、ホームに来訪するすべての人にもすぐに目に入るところに掲示し、浸透しています。ホームの運営方針と、毎月フロア会議で決める目標を掲げ、職員間で共有しながら、利用者にとって安心できる暮らしの支援を、日々のサービスの中で実践しています。スタッフルームには「介護向上を目指す点検項目」「人材になるための7つの条件」などの自己啓発につながるポスターを掲示し、理念と共により良いケアへの意識付けを図っています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>日常的に散歩や買物等に出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり、話をしたりしています。また、町会に参加し、回覧板のネットワークに加入し、回覧板で得たイベント情報でイベント(ふれあい喫茶、夏まつりなど)に積極的に参加しています。</p> <p>地域の中学生の職業体験やボランティアの受入を行っています。ホームでも作業所などの地域施設より訪問喫茶などをしてもらっており、地域の集会所で開催されるふれあい喫茶や鷹合虹の会にも積極的に参加しています。また、施設イベント開催時には、近くの飲食店などに開催の主旨などを説明し了解を得た上で、ポスターの掲示などの協力をいただいています。</p> <p>また、地域の方にクラブ活動の講師として来ていただくなど地域とのつながりが切れないように心掛けています。</p>	<p>地域とのつきあいは理念にも掲げ、大切にしています。町会に加入しており、回覧板と町会長より地域の催しの情報を得て、行事予定に入れて積極的に参加しています。保育園の七夕交流会に参加したり、ホームでのハーブコンサートに園児を招待したりする等、相互での交流を図っています。また、ハーブ演奏、折り紙、傾聴ボランティア、散歩支援等、多くのボランティアが来訪し、交換留学生の受け入れ等により、地域の中での生活に楽しみや変化、途切れないつながりを可能にしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>職員が認知症キャラバンメイトとして地域住民に認知症について正しく理解して頂けるよう活動してるばかりでなく、職員も地域の方と共に認知症サポーター養成講座を受け、「認知症になっても安心して暮らせる町づくり」を地域の方と一緒に考える時間を共有し、日頃業務などで得た知識や経験を伝えています。また、外部講師にて認知症の研修を行い、職員のスキルアップを図りました。</p> <p>民生委員など地域住民対象の見学会や介護予防の講習会の開催は具体的に実行はできていませんが、グループホーム入居につながらない相談であっても、介護保険サービスについての説明や「東住吉区グループホーム・小規模多機能連絡会」で得た情報等、情報提供に努めています。</p> <p>また、ボランティアへのオリエンテーション時必ず、活動に関する留意事項だけでなく、認知症等、理解いただけるような情報提供を行っています。活動中も認知症について理解を深めていただけるよう、面談するなど工夫しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議にて検討した議題についての経過報告を実施し、施設からのイベントの案内や講習会についての情報発信を実施しています。また、施設での事故報告なども伝え、対策についても相談しています。また会議での意見をフロア職員に周知徹底しています。また、年2回程度消防署の方にも参加をお願いし、避難訓練の様子を伝え、防災意識を高めています。	運営推進会議は2ヵ月に一度開催しています。会議のメンバーは町会長、地域包括支援センター職員、利用者家族、管理者で定着しています。ホームより、事業報告と行事や外出などの活動報告をしています。町会長からは、回覧では得られない情報提供があり、会議の中で家族からの要望や出席者からの助言について話し合い、意見を得てホームの運営に反映しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には区包括支援センター職員に参加して頂いています。区の介護保険関係者連絡会を通し、区の担当職員からの情報提供、連携を深めています。	区内のグループホーム・小規模多機能型居宅介護事業所連絡会、介護保険関係連絡会に参加し、同業者間で交流を図っています。また、社会福祉施設連絡会にも区内のグループホームで唯一参加し、区の担当職員とのつながりを構築しています。運営推進会議の年間記録、外部評価の結果を提出に行き、情報を得るなど関わりを深めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b>            代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>高齢者の権利擁護や身体拘束に関する研修会を事業所内で実施し、職員の共有認識を図っています。            また、外部研修にも積極的に参加し、伝達研修を行っています。</p>	<p>年間計画に身体拘束についての研修を位置付け、事業所内外の研修に職員が参加する機会を設け、身体拘束の理解と禁止の対象となる具体的な行為について、職員に周知するようにしています。「大阪府身体拘束ゼロ推進標準マニュアル～利用者本位のサービスによる質の向上を目指して～」をスタッフルームに掲示し、職員の意識付けをしています。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b>            管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止に関する研修会を事業所内で実施し、職員の共有認識を図っています。            また、不適切ケアについての事例検討を行い、なぜそのようなことが起こりうるかを考え、虐待につながらないようにしています。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>            管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修で成年後見人等の制度について研修し、個々の必要性を関係者と話し合い、成年後見人制度などを活用できるように支援しています。            また、ご家族様より相談があった場合は、その都度説明を行っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設見学をしていただき、その際に法人の理念や施設の方針をしっかりと説明してから、時間をかけて対応しています。入居後1ヶ月程度で面会にこられた際に相談する機会を設定しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者評価の結果を施設内に掲示し、意見をだしていただけるよう環境づくりをしています。家族様との茶話会を行い、家族間の交流や意見などを聞く機会などを年3回設けています。ご家族様のクレームに対しては、施設スタッフ全体で対応し予防策を講じています。 家族様面会時に、積極的に意見・要望等がないか確認するようにし、各フロアに意見箱も設置しています。	4月は新入職員の紹介を行い、8月は夏祭り、12月は忘年会を兼ねて家族と職員が食事をしながら親しく話をする機会を設けています。意見箱を設置していますが、家族には直接職員に意見をもらえるように伝えています。また、家族の面会時には要望等、話を聞く機会を設けることもあります。傾聴ボランティアに利用者の思いを聞き取ってもらい、アルバムや資格の賞状を家族に届けてもらい、居室に飾る等、希望を叶えた事例があります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議、勉強会を月1回行い、意見を聞くようにしています。また個別にスタッフに対して、6ヶ月ごとに面談を業務中に行い、現在の仕事状況等についての確認を行なっています。日頃から8Sシートも活用し職員一人ひとりの「気付き」を発言できる機会を設け随時スタッフとコミュニケーションをとるようにしています。 また、毎月チーフ会議を行い、職員との関係を深め、生き生きと働きやすい職場環境を作れるように努めています。	法人が独自に作成した提案シートにより、現状・改善提案・改善による効果など、職員の現場の生の声として気付きや意見を出せる機会を設け、発表をします。優秀な内容には「理事長賞」「施設長賞」もあり、職員のモチベーションアップにつながっています。職員から出た提案により、2階にこたつを設置したコーナーを作ったり、3階にはリクライニングソファを置くなどの意見が採用され、利用者のくつろぎのスペースを実現しています。ベランダのプランターへの水やりにも便利で使い勝手を良くするため、洗面台の下の水道管にホースがつけられるようにするという提案で、賞を得た職員もいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は毎月運営会議を開催し、管理者から職員個々の努力、実績などの把握を行い、各職員が向上心を持つことができる職場環境を整えるため、行事等の希望があれば、それに対応した勤務表を作成し、人員を多く確保するなど柔軟に対応しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部の研修にも積極的に参加できるよう、外部研修のお知らせの掲示など、体制を整備し、施設内研修会についても月1回実施しています。研修報告書については、研修ファイルを設置し常時閲覧できるようにしています。また、職員一人一人と面談をし、本人の悩みや取り組みを把握し、助言しています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大阪市グループホームネットワークや大阪府認知症高齢者グループホーム協議会などに加入し、勉強会への参加やネットワークづくりをしています。東住吉区内でも、東住吉区GH・小規模多機能連絡会や東住吉区ケアマネ連絡会に加入し、ネットワークづくりや勉強会への参加をし、サービスの質の向上に努めています。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>相談に来られた際には必ず施設見学を行い、施設に対しての不安を解消できるように心がけています。その後、しっかりと時間をとりご利用者様の話を聞き、不安の解消やサービスへの要望だけでなく、今までの生活歴など出来るだけ詳しく聞き取れる努めています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた際には必ず施設見学を行い、施設に対しての不安を解消できるように心がけています。その後、しっかりと時間をとり、ご家族様の話を聞き、契約・金額面・医療面についての不安を解消していくようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居希望であるが、すぐに入居できない場合等については、デイサービスの利用やホームヘルパー等の利用についても説明を行なっています。なお緊急でお探しの場合は他施設の紹介もしています。サービスを初めて利用される場合は利用に関する手続きを説明しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	協働の意識を持ち、ご利用者様と日々を楽しみながら安心して生活していただけよう心がけています。掃除や洗濯などを一緒に行なうことで今までされてきた生活を大切に、また共通の目的を達成していけるよう共同で生活しています。 また、若い職員が多いため人生の先輩として利用者様から教えていただくという姿勢で対応するようにもしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日企画である個別外出では、しっかりとご家族様・ご本人様から情報収集を行い、過去の外出先等を加味した上で検討しています。面会にこられた際は、スタッフとご利用者様、ご家族様で少しでも話す機会をとれるよう職員にも周知徹底し、その際にご利用者様の近況を報告しています。 ご家族様にはたよりで職員紹介をしたり、4カ月に一度「ご家族様と職員との交流会」を開催し、ご家族様に遠慮なくお話いただける環境を整えるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣で生活されていた場合は、普段の日常で経験されていた場所（喫茶店など）に外出するなど支援を行なっています。また、馴染みの知人・友人が来てもらえるよう家族にも話をしており、家族からの了承を得て、馴染みの知人と短時間の外出の機会も設け、グループホーム入居後も入居前の関係が途切れないよう努めています。	利用者にとって旧知の知人・友人の訪問が多くあります。ホームに入居前からかかりつけの医師の往診など、馴染みの関係を継続しています。家族との外泊や馴染みの知人との外出など、いつまでも親しい関係が続くように支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性については、常に意識してケアを行い、スタッフが関わることで良好な人間関係を保てるよう努力しています。問題が発生した場合は臨機応変に座席の変更等を行ない対応しています。 特に新規入所者の方には関わりを多く持ち、他の利用者様との関係づくりができるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて、家族様と連絡を取り合い、支援する場合もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、ご利用者様の表情や言動等から思いや希望の把握を行うようにし、困難な場合もご家族様などに相談しながら外出やレクリエーションの参加等につなげていくようにしています。 ご利用者様が思いを話しやすい雰囲気づくりに努めています。	スタッフ会議の中で、利用者ごとに先月の振り返り、今月の変化を話し合い、出された意見や居室担当の観察の報告により利用者の思いを把握します。思いを言えない利用者の意向は日々の関わりの中から掴んだり、家族に聞いて確認することもあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様およびご家族様から積極的に情報収集を行なっています。毎年新しい情報を追加・更新を行なっています。ケース記録に保管し、随時確認できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後1ヶ月間は重点的に観察、見守りを行い、現時点での状況をコミュニケーション、日常生活を通じて把握するようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の意見については、普段の会話から汲み取り、ご家族様については面会時や電話にて話をしていきます。その結果を月1回のケア会議で検討し、ケアプランに反映させるようにしています。	カンファレンス兼スタッフ会議の内容と、モニタリング、家族の意向を介護計画に反映しています。6ヶ月毎に介護計画の見直しを行うことを基本としていますが、入退院などで変化が生じる時には、随時利用者に応じた見直しをしています。変更した計画書は、家族に説明の上、署名を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を詳しく記入し、ケース記録として誰でも閲覧することができるようにしっかりと記録しています。記録を元にケアプランの見直し、変更を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ご利用者様の状況の変化により随時協力医療機関以外にも受診を行なっています。家族様不在時などについては、スタッフによる受診付き添いも行なっています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域ボランティアの方の協力を得ながら、外出やレクリエーション(歌や昔の遊び)、アニマルセラピー、子供達とのふれあい等楽しんでいただけるよう支援しています。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所の嘱託医による訪問診療を行っています。嘱託医以外の受診についても、ご利用者様の必要に応じて、ご家族様と連絡を行ない、通院介助を行っています。複数の医療機関を受診できるような環境づくりをしています。</p>	<p>入居以前からかかりつけの医療機関へは受診が可能で、通院は家族の協力を得ています。近くの協力病院やかかりつけ医の受診には、職員が対応することもできます。硬縮予防のために医療での訪問マッサージを受けている利用者もいます。法人内特養の看護師とは、24時間オンコール対応となっており、緊急時対応も可能となっています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関のクリニックによる定期健康診断および排泄のコントロールについても適時連絡、指示を仰いでいます。また、週1回の訪問をしてもらい、日常の健康管理をしてもらっています。また、併設されていますデイサービスの看護師にも随時状況の確認・対応をしてもらっています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院された場合は、ご家族様と一緒に診療の方針等について説明を受けるようにしています。また定期的に病室を訪れ、看護師、ご家族様と情報の交換を行い、早期退院に向けた環境整備を行うよう努めています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時に重度化した場合の指針の説明を行い、原則として特別養護老人ホームへの入所申し込みについても説明しています。重度のご利用者様については、随時他の施設への移動などを家族と検討して対応しています。当ホームの浴室状況や食事内容に関してできること、出来ないこと(機械浴がない。)を家族様に伝え、基本的に要介護4になると特養への入所申込を勧めています。ホームとしては次の場所が決まるまでは、ホーム内でできることを伝え、対応することにしています。</p> <p>また、近隣病院にも往診の相談などを行い、協力してもらえよう働きかけている。</p>	<p>入居の契約の際に、「重度化した場合における対応に関わる指針」について説明をしています。重度化に関する基本的な考え方を示しており、ホームで可能なこと、難しいと考えられること等を伝え、利用者本人や家族の意向を尊重しています。食事の摂取が困難になり、医療が必要となって入院した利用者のところへ、職員が食事介助に行き、看取りを経験しています。今後は、重度化への対応や終末期ケアについての方針等、どのように支援をしていくかを再考し、取り組みを進める予定です。</p>	<p>利用者がホームでの生活を少しでも長く継続できる可能性、重度化・終末期の対応におけるホームの力量や体制の整備、対応指針の見直しについて検討されてはいかがでしょうか。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員研修などで定期的に緊急時、事故発生についての対応のロールプレイングを実施しています。</p>		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を年2回定期的に実施しています。夜間の出火についての想定での避難訓練も実施しています。非常用食品や水の備蓄もしています。地域の協力を得られるよう近隣の方と日頃より挨拶など行い関係作りに努めています。 また、今年度は大阪市危機管理室防災アドバイザーに災害時に気をつけなといけな事などの研修を行ってもらい、スタッフに避難経路、避難場所などの確認を行いました。	年2回の避難訓練を行い、1回は消防署の立会いの下で実施しています。先日の大型台風による浸水で避難勧告が出た際、建物内の全ての人が3階へ避難できるよう準備する等、日頃から防災時に対応できるよう努めています。備蓄の食品については、賞味期限の確認を怠らないようリストを作成し、備えています。大型商業施設で天井に近い壁に、消火器の設置場所を表示していることを参考にし、ホームの壁の高い位置に消火器の絵を掲示して、誰でもわかるように工夫しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の理念にあるようにご利用者の笑顔を大切にされた言葉かけを行っています。また入職時に「ゆめしぐさ」の研修を必ず行い、お一人おひとりの人格を尊重したプライバシー等損ねない言葉かけや対応の徹底に努めています。記録等については、スタッフルームにて管理しており、日中は常時施錠することで対応しています。	職員は、法人のプライバシー等の行動指針「ゆめしぐさ」を共有し、理念にある「ご利用者の笑顔」を大切にし、利用者の思いを尊重しています。また、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けています。書類やデータ等は事務室で厳重に管理しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと時間をかけてご利用者様とコミュニケーションをとり、ご利用者様が落ち着くことができる環境になるように支援しています。失語症など気持ちの表現が難しいご利用者様に対しても、認知症という疾患と、その方の個性や今までの生活歴等を考慮し、言葉だけでなく表情やしぐさなどから、できるだけ本心に近いお気持ちがくめるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本プログラムは整えていますが、ご利用者様の起床時の状況に合わせてプログラムを変更しています。外出の頻度についてもできるだけご利用者様の希望に添えるように実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>特にご利用者様からの指定の美容室がない場合は訪問理美容にて対応しています。内容(カットやパーマなど)については本人に確認しながら行ってもらっています。お出かけの際には、時々口紅を塗ったり、着て行く洋服を選んでいただくなど、選ぶ喜びも含めた「心のおめかし」を楽しんでいただいています。</p> <p>また、毎週日曜日におめかし倶楽部を開催し、お化粧を楽しんでいただいたり、ビーズでリングを作り、手首につけていただきとても喜んでいただいています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、ご利用者様の状況に合わせて出来る部分を一緒にして頂く様になっています。後片付けについては、洗った食器を拭いて、食器棚にいられていただいています。炊事場の掃除もやっています。 また、各ユニット月に1回、料膳ゆめとして調理師、管理栄養士による季節に応じた料理を提供してもらってご家族様にも一緒に召し上がっていただくなど大変好評です。	朝と夕食は、職員が作り、昼食のご飯や汁物はホームで作れ、おかずはクックチルを利用しています。職員は一緒にテーブルで見守りをしながら食事をしています。咀嚼(そしゃく)困難な方にはソフト食、嚥下困難な方にはとろみ食等を作り、ゆっくりと利用者のペースで食事をしています。アレルギーのある方については、別メニューを提供しています。敬老会の時には、利用者毎に好きなものを聞いて注文しています。誕生日には、担当者と誕生日外出があり、外食で好きなものを食べています。家族と一緒に食事をする機会も作っています。おやつは、ホーム内で作る機会を設けています。利用者は、食器やお盆拭き等、役割を持って行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量および水分量を記録に残し、職員間で把握しています。献立など定期的に同法人の管理栄養士に確認を依頼し、意見を聞いています。 水分が取りにくいご利用者様には好きな飲み物や摂取しやすいようにとろみをつけるなどの工夫をし提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施、夜間は義歯の方には消毒などの援助をご利用者様ごとに行っています。また、週1回歯科医・歯科衛生士による口腔内の確認や口腔ケア指導を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援しています。また個々の状態に合わせて紙パンツやパット類を検討しています。	排泄チェック表により、利用者の排泄パターンに合わせて、トイレでの排泄介助を行っています。夜間は、ポータブルトイレを使用する利用者もいます。介助時には、羞恥心に配慮した支援を心掛けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中のプログラムや散歩レクリエーションを通して身体を動かしていただける機会を多く設定し便秘予防の体操も行っていきます。食事面でもヨーグルトなどの提供を行い、便秘予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者様と相談した上で入浴日の設定を行なっています。その際、時間帯については当日ご利用者様の状況をみながら声かけを行ない入浴していただいています。 同性介助を希望される方や寝る前に入浴されたい方の要望をできるだけ聞き、気持ちよく入浴していただけるように努めています。	週3回の入浴を基本としていますが、希望すれば毎日でも入浴可能です。家族より夜間入浴をすると良く眠れると聞いた利用者には、夜間入浴を実践することで安眠に繋がっています。異性介助を嫌がる利用者には、同性介助で安心して入浴できるように支援しています。お湯は利用者毎に入れ替えし、気持ちよく入浴してもらいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	入眠時間については、ご利用者 様のリズムで入眠していただい ています。テレビを見る方はリ ビングでゆっくりと見られています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	処方箋を各ケース記録に綴るな どスタッフがいつでも閲覧でき るように整備しています。誤薬 がないように毎回名前、日付、 朝、昼、夕をスタッフは口に出 して確認しながら服用してもら うように徹底しています。何か 不明な点があれば、クリニック 往診時や訪問看護時に確認し 、助言を得るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	家事等を積極的にやっていただ けるご利用者様については、し っかり家事を生活リハビリとし てやっていただいています。趣 味については、生活歴等から外 出、散歩、レクリエーションで 支援しています。晩酌を楽しみ にされる方もおられ希望され た時は提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望があった場合はできるだけ対応するようにしています。午後にその希望のあるご利用者様に外出して頂く様にしています。 地域のボランティアの方と一緒に外出したり、回覧板などで知った地域の行事には積極的に参加しています。	日常的には、近くの公園へ散歩に出かけています。食材やおやつの買い物にも、利用者も一緒に行っています。誕生日外出では、担当職員と行きたいところへ行き、食事や喫茶なども楽しむなど個別外出にも取り組んでいます。近隣で生活されていた利用者には、喫茶店などに外出するなど、支援を行っています。ドライブ外出もあります。地域の回覧板で知った行事も参加しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金をお持ちのご利用者様については、買い物の際にはご自身で払って頂く様にしています。現金を所持される安全性やご本人様にとっての意味については、ケース会議等で検討しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族様や友人の方からのハガキや手紙も読むのが難しくなられた方にもご本人の了承を得、読み聞かせをしています。 また、ご希望のご家族様には、ご利用者様と一緒に郵便を書きただけのよう相談室を提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の状況に合わせてテーブルやソファの配置を換えたりして落ち着けるスペースになるようにしています。ベランダでは花や野菜を育てたり、金魚を育てるなど、よりアットホームな雰囲気作りを行っています。 また、季節を感じていただけるように季節ごとにかざりつけを行っています。靴を脱いで座ってくつろいでいただけるスペースを設け、ご利用者様にも好評です。	一面窓ガラスで明るく広いビングからは、公園が良く見え、季節の移り変わりをいつでも感じることができます。壁には、利用者が作った季節を感じる折り紙の飾りつけや、大きな模造紙に歌詞と歌詞に合う絵が書かれ貼られています。こたつのコーナーやソファが配置され、くつろぎのスペースになっています。バルコニーにはプランターでゴーヤなどが植えられ、収穫して食材にして楽しんでいます。トイレのドアは、男性用と女性用が区別できるように、職員が色を変えて花をペイントし、利用者にわかりやすくなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブルやソファの配置を検討し、対応しています。自然にご利用者様同士が座席に座っていただけるように心がけています。 独りにならなれたい場合も行動を抑制することなく、より安全にお過ごしいただけるよう工夫に努めています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族様に現在使っているものを持ってきてくださるよう説明を行っています。入居後は居室内の変更については、随時ご家族様の協力を得ています。	居室には、エアコンとクローゼット、洗面台が標準設備され、一部ではトイレ付の居室もあります。利用者に合わせて、使い勝手の良いポータブルトイレを持ち込んでいる方もいます。ベッドはホームが一律で備え付けるのではなく、利用者に合わせたベッドをレンタルや購入で個別に設置しています。チェストや写真、ぬいぐるみなど、お気に入りのものを飾り、その人らしい居心地の良い空間になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースを広く取っています。トイレや居室などその方の状態に応じてわかるよう掲示をするなど工夫しています。また、脱衣場に手すりやいすを設置し、安全に着脱できるように配慮しています。		